

避難所生活体験

2019年度 函館市青少年研修センター ふるる函館主催事業
ふるる函館 わくわくキャンプ
レポート



こんにちは！そろそろ本格的に冬支度の季節ですね、いかがお過ごしでしょうか。この度は10月5日からの「避難所生活体験」にご参加いただきましてありがとうございます。

昨年の大停電や台風の被害など、災害はいつでもやってきます。幸い函館は今のところ大きな被害はありませんが、防災について改めて考える機会として、地震で停電し、避難してきたという想定で、どのように過ごすかを体験しました。



→消防方に実際にやり方を見せてもらってから、バンドナで止血帯を作ってお互いに腕や頭に結んでみました。

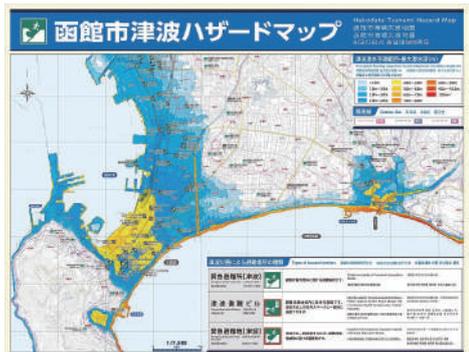


簡単に作れる毛布の担架。みんなで協力して大人も持ち上げましたよ。

まず、北消防署末広出張所の方から防災について学びました。災害発生時にどう動けばいいか等のお話を聞いた後、簡単にできる応急処置について教わり、参加者同士で止血の方法を実践してみました。また、棒2本と毛布で作ってみた担架に参加者やボランティアさんに乗せて持ち上げてみました。



→函館市で出しているハザードマップ。地域ごとに分かれています。その他、電話会社が出している避難所マップなども使ってみました。



←海抜ごとに線を引いていき、自分の家や学校がどの高さにあるかを見ていきました。津波の時に避難できる高い建物の場所もしっかり確認。

その後は、防災ワークショップです。ハザードマップで避難場所と避難経路の確認をしました。災害の時のために普段からどんな備えが必要かのお話の後、それぞれ通う学校・自宅付近で避難できる場所や、家族との連絡方法・集合場所などを、とっさの時に思い出して行動できるように、地図を見ながら考えていきました。防災はなんといっても普段からの備えが重要になります。避難所の確認や、非常用持ち出し袋などの用意・点検などをしながら、定期的にご家族と防災会議をしてみたいはいかがでしょうか。



ワークショップの後は、寝床の準備をしました。避難所に避難してきたという想定で、体育館のブルーシートの上に、銀マットと寝袋を敷きました。その後は夕食の準備です。お湯を入れて食べるタイプの非常食を用意しました。停電中ということで、暗い中での作業となりました。皆さんが持ってきたランタンなどで手元を照らしてお湯を入れたご飯の味はどうだったでしょうか。

広い場所で寝袋で寝るのも落ち着かない体験だったと思いますが、実際に避難した時のことを考えてみるいい機会になったと思います。



おやすみなさい…



非常食にはこのタイプの他に、缶入りのパンなどもありますね。

2日目は、体験したことを感想文にまとめた後、谷地頭町会さんと合同で実施したファミリー防災訓練に参加しました。町会の方々の避難訓練の後、皆さんの感想文を発表してもらいました。西警察署の方から防災についてのお話があり、地図で危ないところなどをチェックする災害図上訓練というものに、町会の方達と一緒に挑戦しました。



たった1泊2日の避難所の体験でしたが、どうだったでしょうか。備えあれば憂いなし。いざという時のために、この時の体験が役に立ってくれたら嬉しいです。またのご参加をお待ちしております。ありがとうございました。



ふるる函館

